

## 平成 27 年度 第 1 回横須賀市まちづくり評価委員会会議 会議概要

- 日 時 平成 27 年 7 月 8 日（水）14:30～17:00
- 場 所 市役所 3 号館 3 階 302 会議室
- 出席者 **【委員】**  
安部委員、川名委員、木村委員、工藤委員、小林委員、野村委員、平田委員、  
細野委員、吉田委員、（委員は 50 音順） ※松本委員欠席
- 【事務局】**  
上条政策推進部長、古谷政策・自治基本条例担当課長、中川主査、鈴木主任
- 傍聴者 なし
- 資料
- ・資料 1 横須賀市まちづくり評価委員会の概要
  - ・資料 2 横須賀市基本計画重点プログラム関連資料
  - ・資料 3 基本計画重点プログラム市民アンケート結果  
（まちづくり評価委員会資料）
  - ・資料 3 別冊 基本計画重点プログラム市民アンケート結果参考資料  
～属性別集計結果～
  - ・資料 4 基本計画重点プログラム 目標と事業の推進状況
  - ・参考資料 基本計画重点プログラム評価結果報告書（平成 26 年度）
  - ・横須賀市基本計画（2011～2021）
  - ・横須賀市実施計画 平成 26 年度（2014 年度）～平成 29 年度（2017 年度）
- 議事内容
1. 辞令交付
  2. 政策推進部長あいさつ
  3. 会議の公開等について
  4. 委員および事務局紹介
  5. 委員長および委員長職務代理者選任
  6. 横須賀市まちづくり評価委員会の概要等について
  7. 基本計画重点プログラムについて
  8. 基本計画重点プログラム市民アンケートの概要について
  9. プログラムごとの検討
- (1) 重点プログラム 1 『新しい芽を育む』  
～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

## 14:30 開 会

### 1. 辞令交付

政策推進部長から各委員に辞令書を交付した。

### 2. 政策推進部長あいさつ

- ・委員へのご就任及び第1回会議へのご出席、ありがとうございます。横須賀市まちづくり評価委員会は何をするのかをご説明させていただきながら、皆さまに期待していることなどを申し上げたいと思う。
- ・横須賀市基本計画で、2011～2021年の間に横須賀市の政策をどういう方向で取り組んでいくかを定めている。11年間という非常に長いスパンであるため、3・4・4年と区切って、それぞれ詳しい事業や予算をどれぐらいかけていくかを実施計画で決めている。平成26年度～平成29年度までの4年間の計画だが、この評価委員会では平成26年度に行った事業などをどう評価できるかを皆さんでご議論いただきたい。
- ・議論の下地になるものとして市民アンケートを行っている。市民の皆さんが、横須賀市が子育て政策や地域の活性化政策などを行うにあたってどのように評価しているか、或いは依然と比較してよくなったのか悪くなったのかという体感を2,000人ぐらいに聞いている。そのアンケート結果と、実際に行政が何を行ったかを皆さんにお示しして、これでよいのかどうかということをご議論いただきたい。
- ・その結果を我々がまとめて、各事業を行っている部署の部長に提示して、その部長が皆さんの評価と自分たちの事業等を見比べながらもう一度チェックする。そのチェックしたものを最終的に来年度以降の予算に反映させていく、事業評価を行った上で来年度以降の事業を組み立てていくという流れである。
- ・我々は行政サイドから見ているが、専門的なお立場、市民生活により近いお立場から、横須賀市の政策はこの方向でよいのか、もう少しこのような分野に注力した方がよいというような率直なご意見をお聞かせいただければありがたい。そうしたお声を市の予算や政策の中に反映させていきたいと思っている。よろしく申し上げます。

### 3. 会議の公開等について

事務局から、「まちづくり評価委員会の会議の傍聴に関する要領」に基づき、会議の公開、会議概要の公表について説明を行った。

### 4. 委員および事務局紹介

各委員の自己紹介および事務局の紹介を行った。

## 5. 委員長および委員長職務代理者選任

事務局から、「まちづくり評価委員会条例」第3条の規定について説明を行った。  
委員互選により、委員長に細野委員が選出された。  
細野委員長から委員長職務代理者に松本委員が指名された。

## 6. まちづくり評価委員会の概要等について

事務局から、資料1に基づき、横須賀市まちづくり評価委員会の概要、進め方、スケジュール等について説明を行った。(質疑等なし)

## 7. 基本計画重点プログラムについて

事務局から、横須賀市基本計画、横須賀市実施計画、資料2に基づき、基本計画重点プログラムについて説明を行った。  
(質疑等なし)

## 8. 基本計画重点プログラム市民アンケートの概要について

事務局から、資料3に基づき、基本計画重点プログラム市民アンケートの概要について説明を行った。

(安部委員)

- ・このアンケートはいつ実施されたのか。

(事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長)

- ・資料3の3ページに記載させていただいているが、今年の4月22日～5月11日に実施している。

(安部委員)

- ・40万都市でサンプル数が700件強というのは少なすぎるのではないかと。これで傾向を推察するというのは少し危険な気がする。自身の町内会は本庁地区に属するが、このようなアンケートがあると連合自治会の会議の中で報告があるが今まで聞いたことがない。無作為抽出だと思いが、6千人のまちで該当者が聞こえてこないというのはアンケート送付対象者に偏りがあるのではないかと。

(事務局：中川主査)

- ・近隣でアンケートを受け取った様子がないというご意見は40万人のうちの0.5%なのでよく理解できるが、統計学的には、40万人の市民を母集団とした場合にサンプル数としては最低400件程度が必要とされる。回収数は700件余りなので、信頼性はあると考え

ている。

- ・本庁地区には6万5千人の市民の方がいるが、今の考え方では本庁地区だけでも400件程度が必要である。属性別の集計ではサンプル数が少なく誤差が大きくなるので、細かく分析していくという点では委員の仰るとおりだと思う。

(安部委員)

- ・市民の意向を推察するには、2,000件そのものも少ない。事務局にとっては大変な作業になるが、横須賀市の基本計画なので、市民の声を吸い上げていく必要がある。そこで労を惜しむべきではないと思う。

(細野委員長)

- ・留置法やこのような方法だと回収率は10%強である。個人的には横須賀市民は意識が高いのかなと思っている。どういう配布の仕方をするのかは大事だと思う。市民に満遍なく配布されて代表性が担保されるとよいというご意見かと思う。

(安部委員)

- ・町内会などで住民アンケートをする場合には、全住民を対象にするが、回収率が7割を超えるぐらいまでは催促する。それで住民の意向のおおまかな傾向を把握できる。一般的な傾向の中では回収率は高いようだが、政策を考える上では労を惜しまずにやられた方がよいと思う。今後の課題として検討してほしい。

(事務局：中川主査)

- ・このアンケートでは傾向しかわからない。具体的な回答理由については自由記述で記入していただいているが、市民の皆さんにお集まりいただいてご意見を伺うなどをしないと市民の意見とは言えないと思う。

(安部委員)

- ・市内には365町内会がある。その町内会長にヒアリングを行うという手法もある。町内会長は地域住民の意向を把握している。

(小林委員)

- ・統計学的には低いということではないようだが、例えばポイント制度などを活用すれば回収率が上がるかと思う。

(細野委員長)

- ・サンプルの数が多ければよいということではなく、代表しているような意見が吸い上げられるシステムが大事である。属性別の回収率を見ると少し女性の方が多いようなので若干のバイアスがあるかもしれないが、女性や高齢者の方がまちにいる時間が長い。そういう人たちがじっくり考えて書かれたアンケートなので、情報は良いものが出ていると考えていただいてよいと思う。
- ・ポイントなどを付けて回収率を上げようという考えはよいと思う。

(安部委員)

- ・資料が送られてきたのが3日前ぐらいかと思う。十分読み解く時間がなかった。もう少し早く送ってもらえればじっくり目を通せると思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・仰るとおりで大変申し訳ない。今日は第1回目だが、第2回、第3回と開催していく間に改めてお目通しいたいて、遡ってお気づきの点等があれば次回以降の会議でご意見をいただければと思う。なるべく早く資料を送れるようにしたい。

#### 4. プログラムごとの検討

##### (1) 重点プログラム1 「新しい芽を育む」

～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

事務局から、アンケート結果などについて説明を行った。

《アンケート結果》

- ・取り組みの方向性の状況  
「現在について」「以前との比較」とともに、変化がない状況  
1-1は右上の象限に位置しており実感が得られている  
1-2は「現在について」で実感が弱い  
平成23年度との比較では1-1は「現在について」「以前との比較」とともに上昇  
1-2は動きがない
- ・「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」の主な回答理由  
現在について  
良…自然環境の充実、子育て支援施策や助成等の充実  
悪…産科・小児科などの医療体制が不十分、出産・子育てにかかる費用負担  
以前との比較  
良…施策の充実、子どもを預ける場の充実  
悪…産科や病院などの医療体制が不十分
- ・「1-2 人間性豊かな子どもの育成」の主な回答理由  
現在について  
良…施策の充実（学力向上、国際コミュニケーション能力育成など）  
悪…施策が不十分など教育環境に対する不足感  
以前との比較  
良…施策の充実（不登校・いじめ対策など）  
悪…子どもたちの様子を見て、人間関係の希薄化

《重点プログラムの目標の状況》

- ・「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」  
合計特殊出生率：基準値（平成24年度）1.25人／直近値1.24人で低下  
保育所待機児童数：基準値（平成25年度）34人／直近値24人で減少傾向

小学校の教室を利用する学童クラブ数：

基準値（平成 25 年度）15 クラブ／直近値 17 クラブで増加傾向

アンケートによる市民満足度：

基準値（平成 25 年度）11.5 ポイント／直近 9.7 ポイントではほぼ変化なし

・「1－2 人間性豊かな子どもの育成」

全国学力・学習状況調査結果の全国比較（小学校 6 年生・中学校 3 年生）：

小学校 6 年生…基準値（平成 25 年度） $\Delta$ 5.6 ポイント／直近値 $\Delta$ 5.2 ポイントで  
ほぼ変化なし

中学校 3 年生…基準値（平成 25 年度） $\Delta$ 1.2 ポイント／直近値 $\Delta$ 1.5 ポイントで  
低下

英語によるコミュニケーション能力の習得状況（中学校 2 年生）：

基準値（平成 25 年度）1.9 ポイント／直近値 3.6 ポイントで目標値 3.0 ポイント  
を上回る

1 カ月に 1 冊以上本を読む児童生徒の割合（小学校・中学校）：

小学校…基準値（平成 23 年度）82.9％／直近値 89.6％で目標値 88.0％を上回る

中学校…基準値（平成 23 年度）64.1％／直近値 61.0％で低下

アンケートによる市民満足度：

基準値（平成 25 年度）9.6 ポイント／直近値 $\Delta$ 0.9 ポイントで低下

（細野委員長）

- ・子育て世代の世帯数の増減はわかるか。次回会議に提示していただければと思う。出生率は上がっているようだが、子どもたちの数を増やすためには子育て世帯数が増えてくればよいと思う。

（川名委員）

- ・教育に関しては、小学校で放課後に希望者に補習して下さって、子育て世代の方に評価されていると思う。英語教育は、再編交付金の一部を使っているのも全国的にもダントツにネイティブスピーカーの授業が多い。長く市内に住んでいる方は他都市との比較はご存知ないかもしれないが、子どもたちからの評判がよい。
- ・年齢別で見ると、「1－2 人間性豊かな子どもの育成」の「現在について」で 30 歳代からはあまり評価されていないようだが、その理由は何か気になっている。

（吉田委員）

- ・小学校の教室を利用した学童クラブ数について、これ以外にも学童クラブはあると思うが、期間中の目標 25 クラブで足りるのかと疑問に思う。横浜市には学童クラブの他に「はまっ子ふれあいスクール」があり、それに関しては充実しているので、学童クラブに入れないという話も聞いたことがないが、横須賀市の友人からは学童クラブに入れないと聞いた。保育園を卒園した後の小 1 の壁が大きいのではないかな。

（細野委員長）

- ・資料に記載されているのは公立の学童クラブのことなのか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・民間の学童クラブである。市立学校の校舎内に民間の方に入っていて運営していく手法である。横須賀市には公設がなく、全て民設民営である。

(事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長)

- ・市内には54の学童クラブがある。そのうち、資料4の1-1の目標のところに記載されている数が学校の校舎内に入っている学童クラブである。

(小林委員)

- ・「はまっ子ふれあいスクール」は無料か。横浜市や川崎市の学童クラブは無料と聞いたことがあるが、横須賀市は有料で高いと聞いている。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・横浜市も無料ではない。しかし、横須賀市の学童クラブの保育料が高いことは認識していて、そこが問題だと思っている。

(細野委員長)

- ・高額なのは民設民営だからということか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・学童クラブの成り立ちは各市町村で異なる。横須賀市の場合は民間から発生している。昔は共働きの家庭は少なかったが段々増えていく中で、保護者が必要に迫られて運営し始めた。民間で成り立たせていくためにはアパートを借りてきちんとした指導員を置いて運営していかないといけないという中で保育料が設定されている。その後、色々な形態が出てきているが、当初の設定が高額だったのかなと思っている。

(川名委員)

- ・学童クラブについては、横浜市と横須賀市はだいたい1万円ぐらい違う。幼稚園の保育料もそのぐらい違う。「はまっ子ふれあいスクール」はおやつ代ぐらいだが、横須賀市は莫大な補助を出している。また、横浜市とは税収が違うので仕方がないところもある。
- ・学童クラブは小1の時に近くにならないという問題はあるかもしれない。
- ・低学年の時には学童クラブに入れるが高学年になると子どもが不自由さを感じて辞める傾向がある。保育料が下がらない理由として、場所によっては一定の水準の人数が確保されないことがあると思う。指導員の人数にばらつきがあったり、子どもの人数が多すぎるところもある。
- ・横須賀市にはわいわいスクールもある。

(野村委員)

- ・横須賀市は学童クラブで放課後の小学生をみているが、他都市では、「はまっ子ふれあいスクール」もそうだが、放課後クラブやふれあいスクールなどと学童クラブが併用されていたりする。学童クラブは保育料を徴収するが、放課後クラブは会費が安価で、学童クラブに入らない方もいる。

- ・子どもの数が減ってきて教室に余裕が出てきたので、有効活用ということで校舎に学童クラブが入る動きがある。学童クラブと学校が連携をしながら取り組んでいるところである。

(工藤委員)

- ・年齢別の傾向を見ると、「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」では30歳代の満足度が低い。「1-2 人間性豊かな子どもの育成」でも突出して低い。小さい子どもを育てている世代が実感している部分で不満が出ているのかなと思う。
- ・地域別では、1-1で追浜地区の回答者の約半数がマイナスの実感を持っていたり、1-2で本庁・逸見地区や衣笠地区で実感が低い。世代と地域別で細かく分析をすると不満に思っている理由が出てくるのかなと思う。
- ・回答理由分類を見ると、興味深かったのが、子どもを預ける場や遊び場などについて肯定的な理由と否定的な理由の両方で多く挙げられている。地域格差が出ているのではないか。そのあたりを細かく追究すれば、どこの地域のどういう世代がどういうことで行政に対して不満に思っているのかが浮き彫りになるかと思う。

(細野委員長)

- ・地域別と年代別の二重クロス集計はできるか。特に30歳代がどのような意識を持っているのか比べられるとよい。

(事務局：鈴木主任)

- ・集計は可能なので次回会議でデータをお示しできればと思う。しかし、資料3別冊のとおり、属性別で集計をするとサンプル数が少なくなる。自由記述回答を記入していただいている方はさらに少ないので、細かくすればするほど母数が小さくなる。代表性の担保は難しい。一部の方の意見に留まってしまうとは思う。

(細野委員長)

- ・30歳代は若いので移動量が多い層である。ICTを使っていたりして情報量も多く、居住地の選択など色々な面で他都市と比較していると思う。

(工藤委員)

- ・行政で人口減少の分析をされているが、30~40歳代の流出が多いという結果も出ているので、そのあたりの理由の一つが出てくるかもしれない。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・30~40歳代の流出が多いという点について、横須賀市の人口がどんどん減っているのは事実で、特に我々が問題に思っているのは30~40歳代が減っていることである。転出率は横須賀市も他都市も15%ほどで同じぐらいである。一方で、転入率は逗子市が30%、藤沢市が20%ぐらいで、転入率が転出率を上回っているなのでその世代が増えている。横須賀市の転入率は13%で、2%ほど転入率より転出率が上回っているなので、減っている状況である。そこは皆さんの共通認識として持っていただきたい。
- ・工藤委員が仰ったように、30~40歳代の転入率をいかに増やすかという点で、分析は有益かもしれない。



(野村委員)

- ・ 属性別について、1－1については追浜・田浦地区、本庁・逸見地区あたりは実感が低く、大津・浦賀地区、北下浦・西地区はまずまずというところである。自由回答分類では「現在について」の自然環境や小児医療費助成が多く挙がっている。小児医療費は秋に6年生までになるが、横須賀市全体の施策である。他方、自然は西地区が多いと思うので、この理由が集計結果につながっているように思う。
- ・ 否定的な回答理由では産科について多く挙がっているようだ。私自身は産科はあると思うのだが医療施設の状況と実感が低い地域の関連はどうか。DIが高い大津・浦賀地区の方に産科が多い訳ではないとは思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・ 推測ではあるが、追浜地区は最近大きな開発で人口が増えた。それに合わせて保育園の定員数を増やしたり学童クラブを整備したりしたが、それでも入れないお子さんが出てしまっているということがある。
- ・ 医療については、5年ぐらい前は産科医師が不足していて、市内で産みたいと思うお母さんが市外に出産しに行っていた状況であった。その後、産科医師を増やして、今は市内で産みたいお母さんは市内で産めるぐらいの産科医師を確保している
- ・ アンケートは無作為抽出だが、5年ぐらい前に出産を経験した方が回答されると、産科が不足していると思われる可能性もあると思っている。
- ・ 小児科も充足していると聞いてはいるが、逆に今日、委員の皆さんに実感をお伺いしたい。

(小林委員)

- ・ 医療体制については、特に困ることもなく不十分とは思っていない。うわまち病院は小児科医療が県内でもトップレベルと聞いているので、アンケートに回答されている方がそういうことを知らないのではないかと思った。
- ・ 出産の時には、里帰り出産ができず、今すぐ病院を決めないと受診できないという病院があったので、その点についてはお母さんには厳しいと思ったが、それ以外では特に支障なく、産科医院も多いのではないかと思っている。

(安部委員)

- ・ 行政サービスの格差で人口移動が起こったという例はある。銚子市から茨城県神栖市に子育て世代が移動したり、高齢者福祉を巡って八王子市や相模原市から町田市に移動した時期があった。
- ・ 行政のサービスをいかに充実していくかということでは、きちんと市民のニーズを読み解いてニーズに応えるかたちで政策を打ち出していないと住民移動が起こってしまう可能性がある。
- ・ 基本計画は2021年までだが、国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来人口推計によると2040年に30万人になって中核市ではなくなってしまう恐れがある。さらに恐れているのは2040年には対2010年比で年少人口が半分近くに減少する。これをなんとか食い止めない限り、活力の減退は避けられないと思う。これから先の政策課題は重い。

- ・次回会議までに、横須賀市の経常収支比率、公債費比率、未償還債務残高を教えてください。財政の立て直しをしっかりとやっていかないといけない。財政が逼迫すると、行政サービスは低下せざるを得ない。行政サービスが低下すると、市民が見切りをつけて手厚い自治体に流出してしまうということはあり得る。総合的な政策を打ち出していく必要があると思う。

(吉田委員)

- ・小児医療について、24時間体制での小児医療などはどうか。そういう病院もあるとは思いますが、市民にアナウンスされているのか。知らない人も多いのではないかと。産科は事前の準備ができるが、小児科は待たないで、夜中に急に行かなくてはいけないことも多い。「病院に行かなければ」と思った時にすぐ情報を得られる体制になっているか、各病院と行政できちんと情報共有ができていくかというところが大事だと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・救急医療センターが新港町に移転した。医師は常に常駐していて小児科もある。市の中心部に24時間受療可能なところがあるので、お子さんをお持ちの方にとっては、横浜市などよりも便利かと思う。

(安部委員)

- ・救急医療センターが新港町に移転してから夜中の救急出動件数がすごく多い。利用されているようだ。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・医療体制については、そのような環境であってもこういうアンケート結果が出ているので、原因はどこにあるのかなと思う。推測で5年ぐらい前の産科の状況を申し上げたが、そのあたりを掘り下げたいと思っている。周囲の方の声など、何か情報があればお寄せいただきたい。

(安部委員)

- ・救急医療センターの利用の仕方などの市民への啓発活動が行われていると聞いた。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・こういうケースでは救急車を呼ばなくても大丈夫だというような案内をしている。

(細野委員長)

- ・認知ラグが生じているようだ。現状と5年前の経験を比較してラグが起こっている。このような基礎データがあるがこれを読んで回答してほしいという調査方法にすると、認知ラグが出ない回答になるかもしれない。
- ・行政情報をどのように出していくかの課題につながってくる。

(木村委員)

- ・町内会活動などが盛んな地域に住んでいる人は情報を入手しやすいが、情報を入手できない市民がいるのではないか。マンションでは入居時に隣にあいさつに行かない人なども多いし、町内会活動や横のつながりがなく情報を共有していないだろう。
- ・30～40歳代は結婚していない人も多くなっているので、同世代の既婚者の仲間が周囲に少ないのではないか。お母さんたちがまちや公園で話していたりするが、そういう機会がないと医療などの情報も入手できないのではないか。町内会、地域運営協議会の活動などからもっと広げていくような情報提供も必要かと思う。

(平田委員)

- ・アンケート回答者には医療機関が近所にあるということを知らない人もいないか。私たちの町内には公園がないのでお母さんたちが集まる場が少ないが、そういうことを知らない人も流入してくる。情報の入手の仕方、発信の仕方が大事なのではないか。
- ・アンケートを記入していても、周辺の状況がよくわからないから否定的な回答にしてしまう人もいるように思う。

(安部委員)

- ・横須賀市連合町内会では町内会・自治会加入促進委員会を発足させて、今年6月、(公社)神奈川県宅地建物取引業協会、(公社)全日本不動産協会と、加入促進の取り組みを強化していく協定を締結した。
- ・新しく横須賀市に転入する方々は、市役所の窓口を訪れる前に不動産会社に行って物件を探ることが多い。その段階で情報をキャッチして、転居先の町内会長と連携するプログラムを進めている。町内会・自治会加入率は、現在は85%前後だが、もっと上げていくことができると思っている。

(細野委員長)

- ・町内会の加入率は地域ごとに把握しているのか。それについても次回会議でデータを出していただければと思う。

(安部委員)

- ・市民部でデータを持っていると思う。地域ごとにばらつきはあるだろうが、全体では85%ぐらいだと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・他都市に比べて加入率はすごく高い。それでも情報入手などの課題は生じる。

(工藤委員)

- ・アンケートの設問について、項目が多いので深くは尋ねられないと思うが、「人間性豊かな子どもの育成が進められているまちか」と尋ねられた時に回答者はどのような判断をするのだろうかと感じた。市の施策に生かしていくための回答がほしいと思うが、回答理由分類の中で、例えば、「大人・親がよくない、しつけができていない」「子どもたちの様子を見て」という回答をもらっても行政には対応しにくい。

- ・施策なのか環境なのかなど細分化できると思うので、施策に直結するような分かりやすい設問の作り方をした方がよいのではないかと感じる。

(野村委員)

- ・教育委員会のホームページで全国学力・学習状況調査の結果を公開しているが、トップクラスという訳ではない。学力向上の取り組みとして、サポートティーチャーを各校に3名配置してもらっている。例えば、算数に苦手意識を持っている子どもに、授業をしている教員と悩んでいる子どもに指導する人との2人態勢の指導を行ったり、人数の多い学級では2つに分けて少人数指導を展開したり、サポートティーチャーを5・6時限目が終わった児童に残ってもらって補習をする取り組みをしている。
- ・書く力をつけるための作文指導や、計算力をつけるために朝の時間に取り組んだりしている。また、本をしっかりと読んでもらおうということで、朝読書のほか、司書の方が巡回して各学校の図書室を整備したり、保護者の方に図書ボランティアをお願いして読み聞かせをしてもらったりしている。
- ・公開している結果はトップクラスとは言えないが、スイッチを入れれば跳ね上がるような学力ではなく、地道に取り組んで浸透していくような学力の定着を目指しているところである。

(細野委員長)

- ・「人間性豊かな」とあるが、認知的スキルと非認知的スキルと二通りある。情操教育や優しさなどといった非認知的スキルと、東京大学に入るなどの認知的スキルである。ところで、ある程度の認知的スキルがないと非認知的スキルも上がっていかないので両方必要になる。
- ・読み聞かせなど色々取り組まれているが、アンケート結果はあまり上がっていない。このあたりをどのように考えるか。若い世代に横須賀市に来てもらうためには重要な政策になると思う。

(小林委員)

- ・いじめなどが問題になっているようなので、少し気になるところだ。

(細野委員長)

- ・いじめや不登校は県内では多い方なのか。

(野村委員)

- ・県内では横須賀市の発生率が高い。各学校には教職員経験者をふれあい相談員として週2回ぐらい配置されていて、子どもだけではなく保護者の相談なども受けている。中学校にはスクールカウンセラーが配置されているので、中学校のブロック内にある小学校にも月1・2回来てもらって、子どもの様子と教員との関係をアドバイスしてくれたり、保護者にカウンセリングをしてくれたりしている。
- ・だいたいの学校では、登校して来なければすぐ安否確認の電話を入れる、2日目には手紙を送る、3日目には家庭訪問するというような子どもとのパイプを密接につなぐ取り組みをしている。

- ・なかなか教室に入りにくい子どもに対しては保健室登校があったり、ふれあい相談員の方がふれあい相談室という部屋を持っているのでそこで受け入れたり、市内に4カ所相談学級があるので、そちらでサポートを受けながら課題を整理して学校に通えるようにしている。
- ・いじめに関しては、全学校で独自のいじめ防止推進の方針を立てて、それに沿っていじめ防止推進委員会を立ち上げている。子どもたちの声を吸い上げるだけでなく、年に2回程度アンケートを行って、自由記述のところを担当が読み取って面接を行うなど、子どもたちが担任に対して自分の悩みを訴えられるような対策をしている。

(細野委員長)

- ・地域の方が学校に入るコミュニティスクールのような制度はあるのか。

(野村委員)

- ・学校によって異なるが、例えば、PTAのお祭りなどで保護者が校内に入ってきてくれたり、学校公開日として1週間程度、いつでも授業参観に来てくださいという日を設けたり、土曜参観として仕事をお持ちの方が学校に来ていただけるような日を設定している。
- ・改めて日を設定しなくても、だいたいの学校は一報をいただければいつでも学校に来てくださいという対応をしているので、そういうところで子どもたちの様子を見てもらっている。
- ・地域の方が見守り隊としてまちに立ってくださっていて、その方々と話をしたり連絡を取り合ったりしている。

(安部委員)

- ・地域としては、特に通学路の交通安全、学校防災と地域防災との連携について提案している。まだ合意には至っていないが、マンションでは東京圏に通勤している保護者も多いので、首都直下型地震などが起こると恐らく1週間ぐらい帰ってこられない人がたくさん発生する。防災会が学校や幼稚園などから引き取って、マンションの集会室などで臨時避難所を開設して子どもを保護するという取り組みを地区防災計画の中に盛り込んでいる。学校と保護者と防災会との間で協定して責任を持って預かるという合意に至れば実現できる。
- ・子どものいじめの問題は、マンション自治会でも昔の長屋のような文化があって、大きな子どもが小さな子どもの面倒をみるということも定着している。一人っ子であっても兄弟がいる子のように過ごせている。自治会長にいじめなどの情報もすぐ入るし、会長の連絡先も住民に公開しているので何か困ったことがあれば一報が入るので、自治会の組織を上げて対応している。

(細野委員長)

- ・退職された方と学校が連携することなどについて、学校としてはどうなのか。

(野村委員)

- ・ゲストティーチャーとして昔遊びやお話などをしていただいている。

(細野委員長)

- ・高齢者の方も子どもたちと顔見知りになって、悪いことをすれば叱ってもらうなど、よい効果が出るようにも思う。
- ・八王子市ではコミュニティスクールが普及した。農家の人に稲刈りを教えてもらったり昔話をしてもらったり、総合学習のようなことをしている。横須賀市ではどうか。

(野村委員)

- ・地域によっては取り組みがあるようだ。地域の方に田んぼを作ってもらったりしているところもあるようだ。

(工藤委員)

- ・平成20年から市と教育委員会と商工会議所でよこすかキャリア教育推進事業を展開している。地域で働く大人は皆、子どもたちの先生だという位置付けにして、働いている方々を総合学習の時間などに派遣するという事業を行っている。全国的に見ても、単年度で実施しているところはあるが、市の施策として継続的に、この3者が連携して行っているのは稀である。
- ・当初は2校で始めたが、当時の中学生が大学生ぐらいになって、このプログラムで参加した先にアルバイトに行ったり、働くことを教えてくれた大人たちから地域で働くということを経営しながら育っていくというプログラムが進んでいる。

(細野委員長)

- ・そういう取り組みがある中で、回答理由分類を見ると「大人と子どもの交流がない」という回答がある。このあたりも認知ラグなのかもしれない。

(事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長)

- ・キャリア教育については、資料4の8ページに記載している。

(川名委員)

- ・その取り組みで地元愛や地域愛が生まれて、将来の就職先で横須賀を選んでくれる。
- ・「1-2 人間性豊かな子どもの育成」の実感があまりよくない理由として、漠然とした思いから回答されているのではないかと思う。
- ・地域別の「現在について」で、追浜～衣笠、大津～西で大きく2つに分けると、後者の方は好意的に見える。「以前との比較」でも肯定的な回答割合が多い。この地域は自然が豊かで親との同居が多いということもあるかと思う。親と同居をしていると経済的にも余裕ができる。それに対して追浜地区は横浜市から移られた方やマンション住まいの方が多いので、横浜市との比較や自然となかなかふれあえないということがあるのではないか。
- ・マンションから一戸建てに住み替える時に、大津～西の地域を選ばれる方が多いので、そういうことも地域差の要因として考えられるのではないかと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・そういうこともあるかと思う。

- ・もう一点、推測ではあるが、年齢別で30歳代の実感が低い要因として、今まさに子育てをしている当事者で苦勞されている年代なので、実感として厳しく出てくるのではないかということを事務局では話をした。40歳代、50歳代となると一段落して振り返ってみるようなところなのではないか。恐らく30～40歳代前半あたりが一番苦勞されていると考えると、厳しい傾向になる可能性があるかもしれない。
- ・そのあたりはアンケートでは拾いきれないところなので、色々な方の声を聞いていく必要があると感じている。
- ・横浜市との財政力の差という話があったが、自治体によって、学童クラブに財源を投下していたり、小児医療に投下していたり、財源のかけ方が異なると思っている。どうしてもよいところ、悪いところがそれぞれあるが、アンケート結果では、他都市のよいところと比較して「あの市ではこうだった」と指摘する意見も多い印象があり、なかなか難しいところだと感じている。
- ・全てに等しく財源を投下することは難しい。財政というものがあって、その中でどこに重点的に配分していくかということが我々には求められている。そのヒントがこういう議論の中で出てくるとありがたいと思う。

(安部委員)

- ・子育て世代が流出する時には、子どもを連れて移動するので戻って来なくなる。この世代をしっかり掴んでおく政策に重点的に取り組まないといけないと思う。

(小林委員)

- ・住宅を購入する際、費用はお父さんが出すのかもしれないが決定権はお母さんにあると思うので、お母さんが横須賀市は住みづらいと感じてしまうと他都市に出て行ってしまおうと思う。子育てのしやすさは重要なのではないかなと思う。

(川名委員)

- ・今は共働きが増えてきているので、保育園も重要である。勤務先が横浜市や都内の方も多いので、送迎が大変になる。保育園が駅前にあるなど便利さが求められる。横須賀は環境がよいという声が多いので、本当は住み続けたいのにといい本音もあると思う。

(平田委員)

- ・横浜市には駅前の保育園が多い。自宅へ帰る途中に寄れたりする。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・どう努力してもこれから人口は日本全体で減っていく中で、市の方針としてコンパクト化は必須だと思う。交通利便性がよいところに集中して住んでいただく政策が求められる。利便性を考えれば駅の近くになるだろう。

(細野委員長)

- ・女性が居場所を決めるのであれば、女性のニーズに応えるような政策が必要になる。ターゲット層である30～40歳の女性がどのような施策を望んでいるかを考えてほしいと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・女性をターゲットにした施策に注力していきたいと思っている。一方で、30～40歳代の共働きが増えていて、子どもをもう1人産もうと考えた時には男性が家事・育児に協力してくれないとなるとやはり厳しいので、女性の働き方や男性の意識についても考えていかないとこれからは難しいと思っている。民間企業と協力して取り組んでいかないといけない。

(安部委員)

- ・家庭内だけの問題ではなく地域の問題として捉えていけば子育てはかなり楽になる。周囲には3人目、4人目と出産される方が結構多い。3・4歳ぐらいになると近所の年上の子どもたちに遊んでもらっていて、手がかかるのは一番下の子だけになったりする。そういう地域で子どもを育てる環境が横須賀市全体に広がれば、親の負担はかなり軽減されると思う。

(吉田委員)

- ・勤務先では色々な情報が入る。都内では子育てタクシーのチケットがあるとか、住宅価格、治安、子育てサービスなどの話を聞く。そういう情報交換は働いている親ならではの、どうしても比較してしまうところがある。総合的に行政サービスを向上させることは必要だが、頭に残るようなキャッチーなことを行っている自治体は気になる。
- ・横浜市の待機児童ゼロはメディアでも大きく取り上げられたが、何か一つキャッチーなことを出せば、イメージが少し変わってくるのではないか。親も各自治体の取り組みを全て覚えていられないし、比較表を作って比べている訳ではない。
- ・例えば、保育園・幼稚園でも英語教育に取り組んでいるというような話があれば、興味が惹かれる。ニュースになりそうな施策を作りつつ、全体の総合力を高めていくという両輪の取り組みが必要かと思う。
- ・そういった視点で横須賀市の取り組みを考えると、インパクトのあるものがあまり思い浮かばない。

(安部委員)

- ・人の噂は人口移動を促す。地域のマンションは防災力と防犯力は全国トップレベルと言われている。高齢者や子どもの見守りもしっかり取り組んでいるので、市内からの入居者が多い。テレビや新聞などメディアで取り上げられれば問い合わせも増える。横須賀市全体でそういう取り組みをしていけば、人口流出に歯止めをかけることができる。

(川名委員)

- ・政策推進部で英語教育を打ち出しているが、反響はどうか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・今年から米海軍基地内の州立メリーランド大学に市民40名を語学留学させ、半数ぐらいがその大学に留学できる制度を作った。また、キニックハイスクールと横須賀総合高校の生徒が互いに短期留学をしている。



- ・ほかに、英語だけで3泊4日を過ごすイングリッシュキャンプを始めたが、40名募集して今のところ100名以上の応募がある。外国の方が市内に多く住んでいるので、ホストファミリーを育成してホームステイして過ごせるような取り組みも始めた。非常に反響があってメディアにも取り上げられている。
- ・横須賀の特性を生かした教育というものを一つ打ち出していくという中では、英語は一つの可能性として進めていきたい。ただ、実が伴わないといけないので、実が伴うようにするには少し時間をかける必要がある。

(細野委員長)

- ・メリーランド大学は州立大学の中でトップの大学である。ノーベル賞学者も輩出している。もう少し活用してもよいかもしれない。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・横浜国立大学や関東学院大学など、近隣の大学にはご案内している。初めの1年間は夜間になるので、自分の大学に通学しながら行ける。時間的にも節約できるし、費用的にも移動しないで生活できるのでよい。

(細野委員長)

- ・理工系が強い大学である。ぜひウリにしてもっと大々的に送り込んだ方がよい。先方はオープンだと思うので、市役所の職員がまず行ってみてはどうか。
- ・キャッチコピーではないが、幼児から英語教育ということを打ち出してみてもどうか。もう10年もしないうちにビジネスの世界ではバイリンガル一色になるのではないか。今から取り組むことは大事かもしれない。
- ・やはりメリハリをつけないといけない。どこに集中的に財源を投下するかを考えていく必要があるだろう。
- ・学校でも色々努力されているようだが、地域とどのようなかたちで連携していくかなどを考えていく必要があるかもしれない。

(平田委員)

- ・地区社会福祉協議会で色々な行事を行うが、費用がかかる。声をかければ参加者はすごく集まるが、どうしても費用がかかるので断念することもある。予算はどのようにつけているのか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・政策にはさまざまな分野があって、どこに財源を多く投下するかを考える際には、どれが一番市民に喜ばれるかという観点も大事であるし、派手ではないがしっかり予算をつけなければいけないところもある。その中で、こういう分野に予算をつければ市民も喜ぶし実感も上がっていくのではないかなという事業があればご提案いただいて、市の中で議論していく中で実施しようということになれば予算がつくかたちになる。

(細野委員長)

- ・政策もある意味では投資だと思う。どのような投資をすれば担税力のある人口が増えるか、よい政策は投資であるという考え方でぜひ皆さんにお考えいただきたい。

(川名委員)

- ・参考資料の 21 ページに、社会的養護に関する特別養子縁組についての記述がある。市民が喜ぶかはわからないが、非常によい政策だと思う。全国でも初めての取り組みで、とても感動した。市民は「よくやった」とは言わないだろうが、行政は市民が評価することを行うのと同時に、内容として「ひと」のことを考えているような施策をすることも非常に大事だと思う。
- ・米海軍の方は日本人以上に児童養護施設によく行っている。その度に「養子がほしい」という声を聞く。現状の制度下では無理だが、第一歩を踏み出したかたちになるのではないか。グローバルに評価される取り組みだと思う。
- ・市内の児童養護施設は定員いっぱいの子どもたちがいる。クリスマスなどでも親元に帰らない子どもが多い。長くホームで過ごして高校を卒業して退所する。遊びに行く時には子どもたちは1対1のつながりを望むが、米海軍の方は体力があるのでつきっきりで肩車をしてくれたりして、プレゼントをあげるよりも喜んでくれる。
- ・市民からの評価が得られる施策を行うのと同時に、今の時代に合った施策を掘り起こすということも必要なことだと思う。その点で、個人的にこの取り組みはすごく評価している。

(安部委員)

- ・次回会議に向けて提案したいのだが、アンケート結果で横須賀市は災害の心配がないのでよいという回答があったが、横須賀市は関東圏の中でも極めて災害リスクが高い地域である。できれば地域防災計画の概要版を皆さんに配布していただけるとありがたい。

## 17:00 閉会

第2回まちづくり評価委員会会議の開催日時・場所を確認して閉会とした。

(以上)